

令和3年松前町議会第4回定例会行政報告の概要

1 「史跡松前氏城跡福山城跡」整備に係る本丸地区整備について

「史跡松前氏城跡福山城跡」につきましては、平成28年度に策定した「史跡松前氏城跡福山城跡保存活用計画」に基づき整備を進めており、本年度は、幕末の現存遺構である新坂地区の石垣測量と石垣カルテを作成するため、文化庁調査官及び城郭や石垣整備の専門家の方々の現地指導等を受けながら取り組んできたところであります。

この中で、新坂地区の石垣については、歴史的経緯やその構造等から非常に貴重な歴史的資源であるとの指摘を受け、その価値を再認識したところであります。

更に、保存をするための手立てが必要な個所もあることから、史跡全体の保存整備を実施するにあたり、史跡の本質的価値である石垣全体の調査等を最優先で取り組む必要があるとの指導を受けたところであります。

このことから、町としましては、石垣の保全と史跡全体の石垣調査等を優先的に行い、将来的な石垣等の保存管理についての方策を整理したうえで、今後の全体計画となる「本丸地区整備基本計画（仮称）」に位置づけしていくことが重要であると判断したところであります。

当初の予定では、本年度中に町内外の有識者による史跡福山城保存整備審議会へ本丸地区を中心とした整備基本計画の策定に向けた諮問を行う予定でありましたが、これに優先して、今後3年をめどに石垣測量及び石垣カルテの作成に取りかかり、その成果を踏まえ、整備方針について諮問してまいりたいと考えております。

いずれにいたしましても、私たちの貴重な歴史遺産である「史跡松前氏城跡福山城跡」をより良い形で後世に伝えるために、天守の木造復元を目指すことを基本に取り組んでまいりますので、今後とも議員並びに町民皆様には、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

2 町立松前病院の「地域包括ケア病床」の導入について

町立松前病院は、町内唯一の入院医療機関として、「住民が求める最良の医療」を提供してまいりました。しかしながら、患者の高齢化に伴い、南渡島二次医療圏では、急性期医療を担う一般病院の病床数が過剰となる一方、回復期に対応する病床機能の不足が明らかになるなど、当院を取り巻く医療環境も厳しいものになっております。

そのため、早期の在宅復帰にとって必要不可欠である回復期医療機能の強化策として、急性期医療を経た患者、在宅医療を行っている患者の受入及び病状が安定した患者の在宅復帰支援を円滑に行うことが可能で、町民からも求められている「地域包括ケア病床」を令和4年4月の導入に向けて、10月から病院内でワーキンググループを立ち上げ、検討しているところであります。

「地域包括ケア病床」は、医療、介護、介護予防、住まい及び自立した日常生活の支援が包括的に確保される体制の「地域包括ケアシステム」の一翼を担う病床であり、町民が安心して暮らし続けるための支援にも繋がるところであります。

地域包括ケア病床を含めた全体の病床数については、現時点での職員数及び病床稼働率を踏まえ、最大60床で検討しているところであります。